

直接規制と税の効率性

・命題：個々の削減費用を均等化することは効率化につながる。

(図：山口先生の 2000 年度第 8 回の授業プリントを参照してください)

現排出量は A 社 100、B 社 100 合計 200

これを 160 (20% カット) にしたい。

一律 20% カット

A 社 30%、B 社 10% カット(削減費用均等になる組み合わせ)

台形 abcd (プラス分) < 台形 efgh (マイナス分) の方がコストが安くなる。

社会全体の排出量をある一定の目標に定めた時、その目標を達成する最も効率的な方法は削減費用を均等化することである。これ以外の組み合わせは社会的費用が高くなる。

税：税は各主体に同じようにかかるので、必然的に各主体の排出削減費用を均等化する。(横軸に注目 !)

直接規制：A、B 両社の限界削減費用を承知して各主体の限界費用が等しくなるように割り当てることで、排出削減費用を均等化する。(横軸に注目 !) しかし、実際には企業の数は無数にあり、これは実質不可能である。そのため、どうしても削減費用が均等化するような組み合わせとは違った組み合わせになってしまう。



直接規制は税に比べて効率性で劣る

税の問題点：現実において、企業は無数にあり、各企業の削減費用曲線の形状も分かっていない。このような状況で、ある一定の目標を達成するため税の試行錯誤をする必要が生まれる。しかし、税を試行錯誤することは社会的な混乱など多くの問題を招いてしまう。